

## 広島大学平和科学研究センター国際シンポジウム

### 「移民・難民－国際社会は人権の危機にいかに向かうのか－」を開催

広島大学平和科学研究センターは12月9日、広島大学学士会館レセプションホールにおいて、平成28年第2回国際シンポジウム「移民・難民－国際社会は人権の危機にいかに向かうのか－」を開催した。

シンポジウムはコロンビア大学人権学研究所（ISHR）平和構築・権利プログラム・ディレクターのデイヴィッド・フィリップス氏の基調講演から始まり、新潟県立大学の猪口孝学長、広島大学大学院総合科学研究科の材木和雄教授のご講演ののち、広島大学平和科学研究センターの西田恒夫センター長のモデレーターのもと来場者の質問も交えながら議論した。シンポジウムを通じ、現下の深刻な難民問題に焦点をあて、シリア、ボスニアなど具体的ケースも取り上げつつ、人道支援の問題点などについて現状と事態改善のための方途に関し幅広く議論した。移民問題を考えることは、各国の抱える問題に向き合うことであり、排外主義にならず、各国ができることを一つ一つ実施していくことが重要であるという指摘がなされた。



基調講演をするデイヴィッド・フィリップス氏



ディスカッションの様子